

# Murayama.Honda Dream.RT

2022年 FIM世界耐久選手権 第3戦

8/4(木)-7(日) 鈴鹿8時間耐久ロードレース 第43回大会

開催場所:鈴鹿サーキット(三重県)



コロナ禍の影響で2019年から中断していた鈴鹿8耐が、3年ぶりに開催された。レースファン待望のビッグイベントに向けてMurayama.Honda Dream.RTも全日本ロードレース選手権と並行してしっかりと準備を進めてきた。

事前に6月9日(木)、10日(金)、7月5日(火)、6日(水)で合同テストが鈴鹿サーキットで行われたが、2分8秒台の前半を記録するなどトップチームと遜色ない速さをみせつけ徐々に調子上げてきたMurayama.Honda Dream.RT。

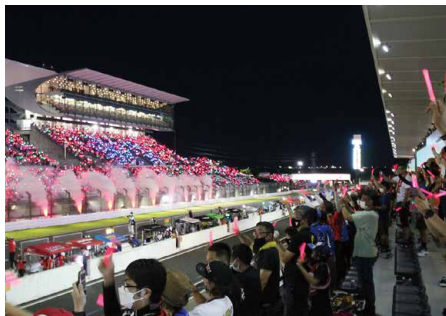
レースウィークに入ってチームの雰囲気も盛り上がり、8月5日(木)の予選前のフリープラクティスでは全体の10番手に入るなど期待が高まった。

公式予選ではまず青腕章の秋吉耕佑選手が2分8秒292のタイムで13番手を獲得。黄腕章の出口修選手も2分10秒880のタイムで続き、最後に1発の速さにも定評のある今野選手がジャンプアップを狙ったが、降雨の影響でタイムアタックができない不運に見舞われた。この降雨の影響で今野由寛選手をはじめ、多くの赤腕章ライダーが予選基準タイムを更新できず、一時はチーム内も緊張を隠せなかったが、結局、赤腕章ライダーは金曜日のフリー走行のタイムを基準に考慮されることとなり、無事予選通過となり胸をなでおろす一幕もあった。

予選はチーム内の早いライダー2人の平均タイムで決まり、秋吉選手と出口選手の平均タイムにより20番グリッドスタートとなったが、3名の総合平均タイムはトップ10に入るレベルにあるため、決勝レースでの巻き返しが期待された。







決勝はお馴染みのル・マン式のスタート。第1ライダーの秋吉選手も絶妙のスタートを切って順位を上げたが、2周目には複数台の転倒車が出てセーフティーカーが入る波乱の幕開けとなった。それでもMurayama.Honda Dream.RTは3人のライダーが平均して速いペースを維持し、レース開始2時間後には17位、3時間後には15位とポジションアップ。そしてレース折り返し地点の4時間後には12位となり、トップ10も視界に入ってきた。

しかし、突然トラブルに襲われる。走行中にサスペンショントラブルか？出口選手がMCシケインで転倒。幸いレースにはすぐに復帰できたが、一度ピットに戻ってフロントサスペンションの交換を行ったことで順位は29位まで後退してしまった。だがここからが最後まで諦めないMurayama.Honda Dream.RTの真骨頂。3名のライダーが実力120%のペースで走り切り、最終的に25位で8時間のチェッカーを受けた。

「チーム一丸となって最後まで全力で戦います」とレース前に語った秋吉選手の言葉通り、熱い走りを見せてくれたMurayama.Honda Dream.RT。今後開催される全日本ロードレース選手権でも期待できそうだ。



今回の鈴鹿8耐ではこれまでの全日本ロードレース選手権と同様に、ホンダドリームジャパンはメカニックサポートを実施。ホンダドリーム名古屋南の綾部さんがタイヤ兼給油係、ホンダドリーム東淀川の西村さんが燃料兼給油係を担当してチームに貢献した。6月、7月の事前テストからの長い期間にも関わらず、拠点スタッフの理解をいただき、メカニックにとっても厳しい環境だったが、この経験をホンダドリームに持ち帰り、きっとユーザーサービスの向上に役立ててくれるはずだ。



秋吉耕佑選手 / 出口修選手 / 今野由寛選手  
 ■鈴鹿8耐レース結果 予選20位  
 決勝25位